

第三回都市開発事例見学会資料

作成者：筑波大学 窪田順次

日時：2002年11月16日（土曜日）

巡検予定地：

大阪ガス実験集合住宅 NEXT21

御幸通り商店街（コリアンタウン）周辺



<概要>

- 1. 所在地：大阪市天王寺区清水谷町 6-16
(最寄り駅：地下鉄谷町線谷町6丁目駅)
- 2. 規模：地上6階、地下1階
- 3. 建築面積：896㎡ 延床面積：4,577㎡ 住戸規模：19戸

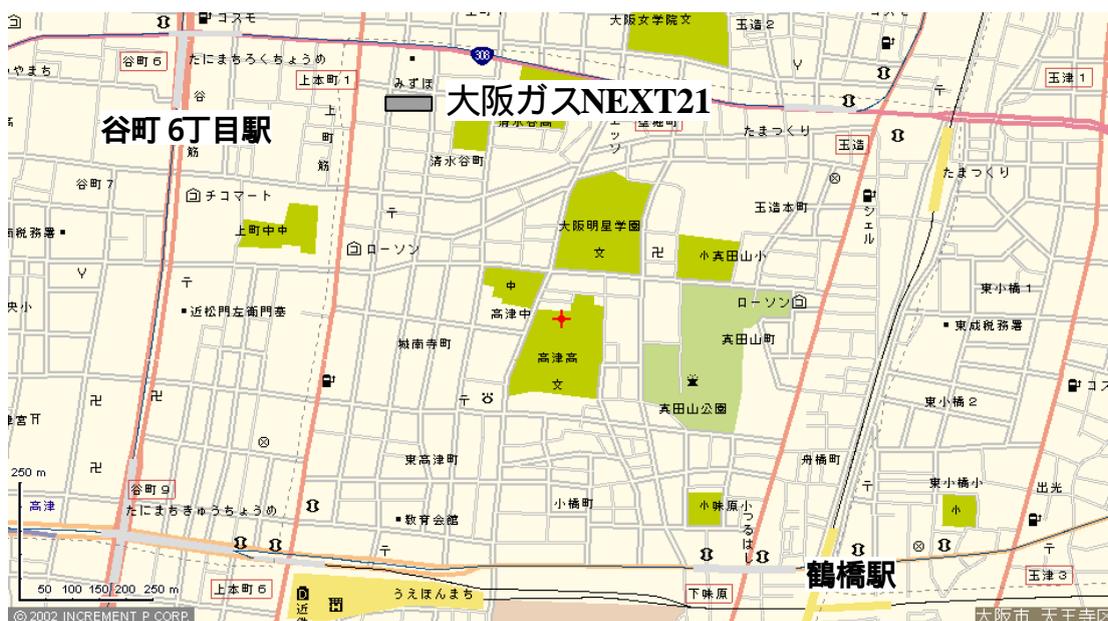
21世紀の都市での環境・エネルギー・くらしはどのようにあるべきか？NEXT21は、その問題について考えていくため、大阪市内に建設した実験集合住宅である(上図)。第1フェーズとして平成5年10月に竣工、翌年4月から平成11年3月までの5年間、社



「大阪ガス実験集合住宅 NEXT21」編

集合時間：2002年11月16日（土）15:30

集合場所：地下鉄谷町線谷町6丁目駅改札



員16家族が実際に居住し、様々な実験を行った。

エネルギーシステム

NEXT 21では、従来の建物の一次エネルギー消費を30%削減する目標をたてて建築・設備の設計を行った。住戸部分は高气密・高断熱の仕様で建築されており、空調エネルギーのロスを小さくする。

集合住宅では初めての100kW 燃料電池を中心としたコージェネレーションシステムを導入。発電する時に出る排熱を空調、給湯エネルギーの一部に使用して、エネルギー使用量の削減をしている。また、7.5kW太陽電池を屋上に設置している。

居住しながら得られた実績をもとに従来の断熱性能で従来のセントラルシステムの建物と省エネ性を比較したところ、一次エネルギーを27%、CO₂を25%、NO_xを74%削減していることがわかった。

廃棄物処理（生ごみ、廃水処理）

NEXT 21では住戸の生ゴミ、雑排水を住棟内で処理するシステムを設置おり、住戸で発生した生ゴミと雑排水は地下に搬送される。液体分は下水処理場と同様に微生物処理により浄化し、固体分は湿式酸化触媒法により、CO₂、N₂という無害の排気と水に分解される。生成された中水は植栽の散水と住戸トイレに再利用している。住戸内で生ゴミを置いておく必要がないため、入居者の評価が最も高い設備機器の1つとなっている。中水の回収量は、1ヶ月平均235m³。5年間の合計で上水使用量を19%削減している。

住棟緑化（エコロジカルガーデン）

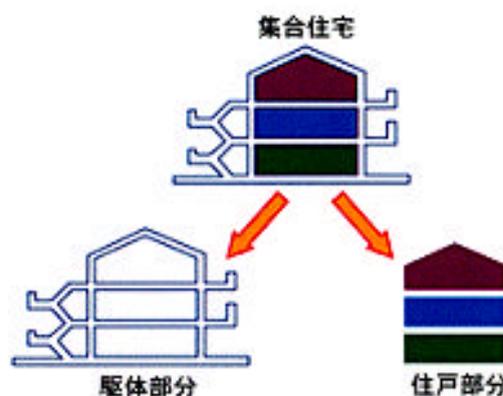
屋上や中庭をはじめ、各階テラス、外構などに合計1000m²の緑地を確保している。中

庭は人が立ち入らない自然の聖域で、エコロジカルガーデンと呼んでいる（下図）初夏から秋は、うっそうとした森のような状態になる。これまでに22種の野鳥が確認され、昆虫も多数観察された。

建築システム



今後増加していくと思われる集合住宅におけるリフォームに対応できるように、建物の骨組みをつくる構造躯体と住戸を分離する方法で建設されている（下図）長期耐久性を持つ躯体を傷つけずに住戸を改修することができ、住戸の設計の自由度も確保することができる。また、住戸の外壁などを規格・部品化することにより、その取替えや移設が容易となるシステムを採用した。



平成12年4月から第2フェーズの実験が開始されている。以下にその主な内容を紹介する。

マイクロコージェネによる住棟エネルギーシステム

住宅の電気・熱需要によりフィットした集合住宅用エネルギーシステムの提案を行う。年間を通じて、貯湯槽により、給湯予熱を行い、また、冬期は、暖房用温水の加熱に回収排熱を利用する。また、夏期の排熱利用機器として、氷蓄熱吸着式冷凍機の開発品を設置し、年間を通じて排熱利用の平準化を図る。

都市コミュニティの形成

第2フェーズではコミュニティの形成や住民と住環境とのかかわりを重視し、居住者の話し合いや共同作業により、住環境の維持・

向上をめざす。住戸内評価だけでなく、住棟や緑地などの住環境に関する評価、コミュニティ形成の経緯などについても調査を行う。

シナリオプランニングによる住宅計画

405住戸では可動間仕切り等により様々な状況に対応できる住戸計画を試みた。今回は共働き夫婦を対象とし、現在と10年後について生活シナリオを作成してもらい、それぞれのシナリオに対応できる間取りを作成した。

参考文献：

<http://www.osakagas.co.jp/rd/next21/>

共働き子育てプラン	単身者共同生活プラン	高齢者コミュニティ開放プラン
		
<p>両親と子供がそれぞれの個室を持ちます。子供が1人なら夫婦寝室またはダイニングを確保、2人なら夫婦寝室の代わりに子供部屋を2室確保することができます。</p>	<p>単身者が共同生活をする場合、独立性の高い個室を1つずつ使用し、リビングやキッチン、サンタラーを共同で使用します。</p>	<p>可動キッチンを移動させ、1人暮らしの高齢者が北側の個室とリビングを外部に開放的に使用し、地域コミュニティの拠点となるような家づくりも可能です。プライベートリビングも確保しています。</p>

「コリアンタウン」編

集合時間：2002年11月16日（土）16:40

集合場所：JR 鶴橋駅改札口

緊急連絡先:

(吉田友彦先生携帯電話)

後半のコリアンタウン見学会は鶴橋駅を起点として国際マーケット、旧商店街、御幸通商店街、コリアンロードを抜けて、コリアンタウン内の健康館バゴタを目指す(図1)。この大阪市生野区、東成区が在日韓国・朝鮮人集住地区であることは全国的にも有名であるが、図3からも明らかである。また、図2より大阪市に在住する外国人といってもほとんど

どが韓国・朝鮮人であることがわかる。

御幸通商店街は1930'sに公設市場を中心ににぎわっていた。しかし、1940-45は疎開する日本人が増加するとともに、朝鮮市場が中央商店街へ進出し、定着した。戦後は、商店街の東半分は空襲で焼け野原になったが、御幸通東商店街(現コリアンタウン)では千代市場が開かれるなどして、3つに商店街が分離した。1995年現在の商店の属性を見ると、御幸通商店街の3割、中央の5割、東の7割がそれぞれ韓国人商店であり、その他が日本人商店街である。近年は、韓国ブームも手伝って中央、東商店街に活気がある。



図1：コリアンタウン見学ルート

外国人の人口比

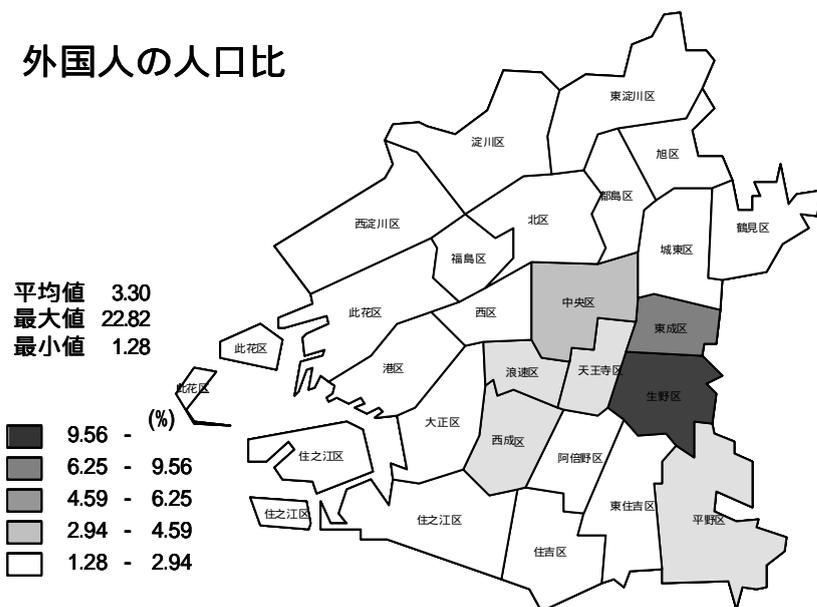


図2：大阪市各区の外国人人口比

韓国人,朝鮮人の人口比

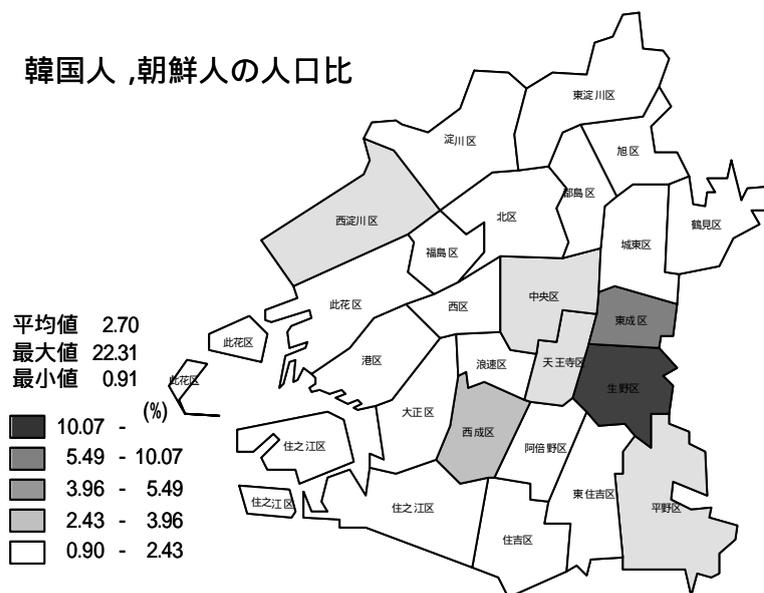


図3：大阪市各区の韓国・朝鮮人人口比

吉田友彦他 社会資本整備過程から見る在日韓国・朝鮮人集住環境の特性 1995年10月 都市計画論文集第30集 pp.145-150

吉田友彦他 在日韓国・朝鮮人集住地区における居住アイデンティティの表現に関する研究 1996年11月 都市計画論文集第31集 pp.559-564